【別紙様式２】（中学校用）

フロンティアスクール用報告書

| 都道府県名 | 広島県 |
|---|---|

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

| 学校名 | 広島市立温品中学校 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学　年 | １年 | ２年 | ３年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | ４ | ４ | ５ | １ | １４ | ２２ |
| 生徒数 | １４０ | １５２ | １７７ | ３ | ４７２ | |

Ⅱ　研究の概要

１．平成１５年の研究の方向性

**＜研究主題＞**

**基礎・基本を身につけ，主体的に学習する生徒の育成**

～　基礎・基本の確実な定着を目指す授業の創造と，個に応じた指導の育成を通して～

**＜研究主題設定に至る背景＞**

①　教育課程の理念等
・教育改革の動向　　・広島県，広島市の教育方針及びビジョン　・学習指導要領
・教育課程審議会答申　　・「観点別学習状況」の評価の観点と趣旨等
・「児童生徒の学習と教育課程実施状況の評価の在り方について」

②　生徒の状況
・生徒指導上の課題解決のために，生徒理解に努め生徒指導体制の確立に取り組む
・授業規律の確立や「分かる授業」の創造に取り組む
・最近では比較的落ち着いた状況で学校教育を推進していくことが可能となってきた

③　保護者や地域に対しても積極的に学校の状況を開示
・協力を要請するなどして，信頼回復に努めてきた
・学校の自浄作用を評価していただき，保護者・地域から暖かい支援を受ける

④　県内で一斉に実施された「基礎・基本定着状況調査」の課題
・保護者に行った学校評価の結果
・各教科の「指導方法は適切であったか」ということを真摯に振り返る
・学力向上に前向きに取り組もうとする雰囲気が教員に広がる　・授業の力量及び指導力の向上

＜研究の方向性＞

① 授業研究をとおして授業改善を図る
・基礎・基本の定着を目指す授業の創造と個に応じた指導の工夫
→ 主体的に学習する生徒の育成を目指す

② 自ら学び，主体的に学習をする生徒を育てる
・「分かる授業」と「個に応じた授業」が必要 → 主体的に活動できる場と時間の設定
・「分かる授業」から「分かる楽しさ」「やってみようとする意欲」「やればできる自信」を育てる

③ 指導と評価の一体化を図る
・個に応じた授業の工夫（少人数指導，ティームティーチング，習熟度別指導など）
・目標基準準拠検査や集団基準準拠検査を活用した指導法の改善
→ 生きてはたらく評価（生徒個々の課題把握と個別指導内容の明確化）
・評価分析にとどまらず，アクション（改善のための工夫）を起こす

④ 基礎・基本を確実に定着させる
・生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導が不可欠である
・全教科において基礎・基本の分析を行い，基礎・基本の徹底と学習内容の精選・焦点化
・ 授業仮説を設定し，ねらいと指導意図・検証の視点を明らかにする

＜指導の実践課題＞

○ 生徒の学習意欲や自己評価能力を育てる

○ 教師の授業の質的向上と評価能力（内的基準と質）を研鑽

＜研究仮説＞

**全教科において基礎・基本の分析を行い，次のことを柱として取り組みを推進すれば，基礎・基本が定着し，主体的に学習する生徒が育つであろう**

○ 授業方法の工夫改善 → 評価を活用し個に応じた指導方法の工夫改善
○ 授業改善 → 指導形態，指導展開，指導方法の工夫改善
○ 学力補充 → 個に応じた学力補充
○ 家庭学習 → 生活習慣の確立，学習規律

＜検証の視点＞

① 評価を生かし，個々の習熟の程度に応じた指導ができているか
② 生徒が主体的に活動できる場と時間の設定はできたか（指導形態，指導展開，指導方法）
③ 到達目標に到達できない生徒に対する指導（一斉指導の中における個の課題解決）
④ 学習規律はできているか（聞く態度，発表態度，ノート整理，学習道具，学習意欲）

## ２．研究内容

**(1) 授業研究の実施**

① 習熟の程度に応じた指導を図る指導案の工夫
② 発問，板書の工夫
③ 教育機器の使用
④ 自己評価能力の育成を意図したプリント，ノートの活用
⑤ 授業規律，学習スタイルの確立

**(2) 個を伸ばす指導法についての理論研究**

① 自分の学習をコントロールし、自己評価する能力の育成
② 問題解決的な学習
③ 体験的な学習（体験と結びついた基礎・基本を確かなものにする）

３．研究方法

**(1) 教材研究・・・基礎・基本の学力をどうとらえるか**

① 基礎・基本の内容の明確化　→　生徒の具体的レベル（思考・行動・心情）で表現し構造化
② 指導内容の厳選と焦点化
③ 指導内容と生徒に身に付いて表れる能力

**(2) 指導方法・・・一斉指導の中で生徒個々の課題をどう扱うか**

① 個人差の把握
② 個別指導を取り入れた指導方法（問題解決的学習及び体験的な学習）
③ 習熟に応じたプリント（思考を支援＋ステップアップ＋評価欄）

**(3) 評価・・・生徒にどう力をつけ，どう変えたか**

① 力が身に付いているか把握，評価
② 形成的評価の結果を生かした補充指導（判定Ｃ）と深化・発展指導（判定Ａ）
③ 評価にとどまらず，次のレベルアップのための指導を行う

**＜研究主題に沿った学習指導案の作成＞**　～新しい学力観と評価及び支援の具体化～

① 指導目標と生徒の行動目標，評価の観点を絞る（評価評定につなげるものは一つにする）
② 目標は具体的で明確にする（認知領域，技能・能力的領域，情意的領域を含む）
③ 授業の仮説を設定する（検証の視点を明確にする）
④ ねらい，方法，評価規準，どう見極めるか判定基準を具体的に明確化する
⑤ 生徒の具体的な行動を想定し，その習熟度に対応した授業にする
⑥ 狙った到達目標と到達レベルの基礎・基本を定着させ，意欲を喚起する
⑦ 評価場面と評価方法の明記（具体的な評価活動を行い，評価情報の収集を具体的に行う）
⑧ 評価規準の判定基準化（生徒の具体的な行動・思考・心情レベルで表現）
⑨ 学習活動に対する個人差の明確化
⑩ 個人差への対応欄を設ける（補充，深化・発展）
⑪ 個人差への対応策を具体的に記述
⑫ 評価の観点は，生徒の具体的な行動・思考・心情をＡ（十分満足），Ｂ（おおむね満足），Ｃ（努力を要する）について明確にする
⑬ 習熟度に対応した個別指導を具体的に明記する

**＜習熟度に応じた指導と評価活動の具体化＞**

① 授業設計段階から実践とマッチする指導案を作成する（教材研究を適性に）
② 単元の目標・本時の目標・展開の評価活動の整合性を図る
③ チェックするもの，記録に残しておくもの，観察程度のもの等，軽重をつける

《評価する内容項目を厳選する》
評価レベル１：評価評定につながる評価（１時間に１～２観点程度）
評価レベル２：レポートやノート整理，作品など授業後に評価
評価レベル３：学習過程の中での説明と励まし，方向づけ等

評価と指導及び支援の

**＜生徒に対する具体的な支援＞**　～カウンセリングマインドを活用した指導方法～

① 生徒個々の能力にあった「めあて」を持てるように一緒に考える（方向性）　→　意識化
② めあて達成のための見通し，課題や練習方法を一緒に考える（めあての修正）→　傾聴
③ 学び方や行い方を受容して，その活動を支援していく（意欲を指示）　→　受容
④ 学び方や態度の良さを積極的に褒め，自信を持たせる（挑戦への意欲）　→　肯定的評価
⑤ 少しの伸びも見逃さず共に喜び，動きの高まりを実感させる（意欲の高揚）→　共感・意欲
⑥ 技能のポイント，学び方や行い方の方向性を提案する（技能課題の意識化）→　課題発見
⑦ 学び方や行い方，態度等の伸びや良さをみんなに知らせる（取り入れ）　→　還元

＜授業実践の力量を高めるための視点＞

① ティームティーチングや少人数指導における評価・指導の共通化
・指導過程における複数指導者間の指導方法や内容を統一し，評価の統一を図る
・二人の授業において指導や評価において差違がないように授業設計の段階から「本時のねらい」「評価の観点」「ＡＢＣの判定基準」を共有する工夫をする
② 生徒の個別の状態を想定し，直線的でなく複線型の展開を授業設計し，個別指導の工夫と充実を図り，到達目標を達成させる
③ 生徒の変容状況を行動・思考・心情の面で具体的に表現する（検証可能な判定基準の設定）
④ 判定ＡＢＣに応じた個別指導及び支援計画の作成 ＊測る評価から育て高める評価へ指導転換
⑤ 展開過程の中で山場を明示し，ねらいに到達したか判断・判定する
⑥ 学力定着状況を分析・把握した上で，導入から山場，まとめ，評価にいたる時間配分を綿密にする ＊ 時間配分は，生徒の現状把握のバロメーターである
⑦ 信頼性と客観性を失わないようにするためにも，評価の能力の向上（内的基準の質）と工夫改善の実績と記録を行う

**(1) 学ぶ心と態度を育てる「学習規律・学習環境の確立」**

① 挙手して，起立し発表する
② 聞く姿勢を大切にする（注意深く見る・聞く，発表者を見る）
③ 活発に自分の意見を言う（理由をつけ発表，大きな声，最後まできちんと話す）
④ よく考える，質問をする，要点をまとめる
⑤ 授業のはじめと終わりにあいさつをきちんとする
⑥ 掲示物による提示情報を充実させる
⑦ 教室の環境整備及び美化を大切にする

**(2) 学ぶ心と態度を育てる「自ら学びコントロールする能力や態度の育成」**

＊ 学習の主体は自分で，自分自身にその責任がある，との意識を持たせる
＊ 自らの学習をコントロールする能力や自己管理する態度を育成する
① 学習する主体は自分 → 学習目標設定に参加（意識変革）
② 自ら問題点を発見 → 課題づくり・解決の見通し（課題の認知）
③ 解決するための適切な見通しを検討 → 方法や手段の決定，解決の計画
④ 結果を課題に照らし評価 → 学習活動を自己評価（評価能力の育成）
⑤ 目標の修正 → 問題点を明確にし努力（参加意識と自己責任の意識）

自己肯定観
自尊感情
向上心
自立心

４．学習指導案改善の視点

① 学習目標を構造的に明確に表現する
② 目標到達度を具体的に記述する
③ 習熟の程度（ＡＢＣ判定）に応じた見取りと，これに対する支援及び指導を準備する
④ 基礎・基本の構造化と焦点化を行う
⑤ 他教科との関連づけをする
⑥ 興味・関心に耐えうる内容を盛り込む
⑦ 学習の指導順序を適切に行う

⑧　時間配分は適切に設定されているか（無理のない授業設計）
⑨　生徒の学習を促進・深化させる支援は計画されているか　＊つまずき、とまどいの多様な想定
⑩　学習内容に対応した学習形態になっているか
⑪　資料・教具は学習のねらいに即しているか
⑫　指導目標・行動目標・評価項目の関連性は図られているか
⑬　到達する生徒の行動を客観的に捉えるための判定基準は具体化されてるか
⑭　評価の時期が明確になっているか・無理はないか
⑮　授業の意図が明確に示される形式に工夫してあるか
⑯　授業の全体構造図がつかみやすい形式か
⑰　主題設定理由・指導目標・学習内容・学習過程・評価基準，判定基準（ＡＢＣ）の記載は適当であるか

(1)　題材観（教材観）
　〇発達段階をふまえた生徒の一般的傾向と題材（教材）との関係
　〇学習指導要領との関係（位置付け）　学校教育目及び研究主題との関係
　〇この題材（教材）で育てたい力，目標
　〇この題材（教材）の内容、価値、意義
(2) 生徒観
　〇既学習からの実態分析　　意欲・関心のデータ分析
　〇アンケートによる実態分析　学習形態・スタイル等に対する意識
　〇これまでの具体的な学習による分析　学習規律の徹底の実態
(3) 指導観
　〇全体的な工夫及び指導方針　→　研究テーマとの関連づけ
　〇一人一人を見据えての工夫
　〇学習形態、学習指導方法、主体的な活動場面の設定
　〇評価の工夫、評価と個別指導、想定される習熟度に応じた支援
　〇教材・教具の工夫
　〇資料の扱い方

**学習指導案に記入する項目**（「学習指導案（試案）」を参照）

1　日　時
2　場　所
3　学　年
4　領　域
5　題材（主題）
6　題材（主題）設定の理由
7　学習指導目標
8　学習指導計画（観点別評価規準）
9　本時の学習　(1) 学習課題　(2) 目標　(3) 学習指導における仮説　＊検証の視点
１０　学力構造図（基礎・基本の関連）
１１　展開（時間配分）

## ５．本校の研究主題に即した指導案の書式「試案」

### (1)　道徳

1　日　　時　　平成○年○月○日（□）☆校時
2　学年・学級　　第○学年○組（男子△名　女子△名　計○名）
3　単元（領域・題材）
4　単元について
　○　教材観
　○　生徒観
　○　指導観
5　単元の目標
6　単元の評価規準
7　指導と評価の計画
8　本時の目標
　○　本時の目標
　○　授業仮説
　○　評価の規準
9　指導過程

中心発問　　生徒の反応　　留意点

| 時間 | 過程 | 学習活動 | 主な発問と予想される生徒の反応 | 学習支援と評価［観点］ |
|---|---|---|---|---|
| | つかむ | | | |
| | 考える | | | |
| | 深める | | | |

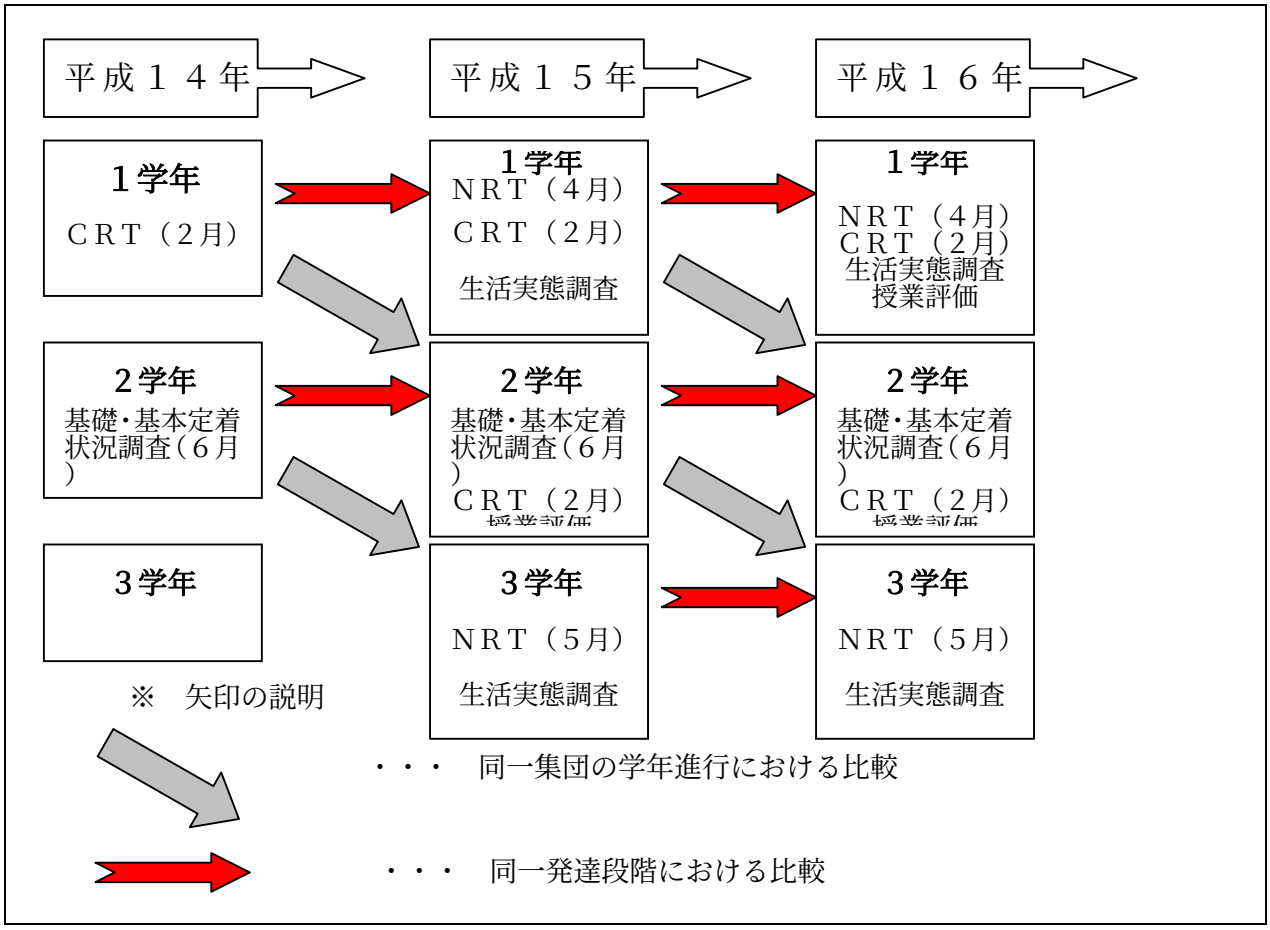
### (2) 教科指導

1　日　　時　　平成○年○月○日（□）☆校時
2　学年・学級　　第○学年○組（男子△名　女子△名　計○名）
3　単元（領域・題材）
4　単元の設定理由
　○　教材観
　○　生徒観
　○　指導観
5　単元の目標
6　単元の評価規準
7　指導と評価の計画（支援計画）
8　本時の目標
　○　本時の目標
　○　授業仮説
　○　評価規準
9　指導過程

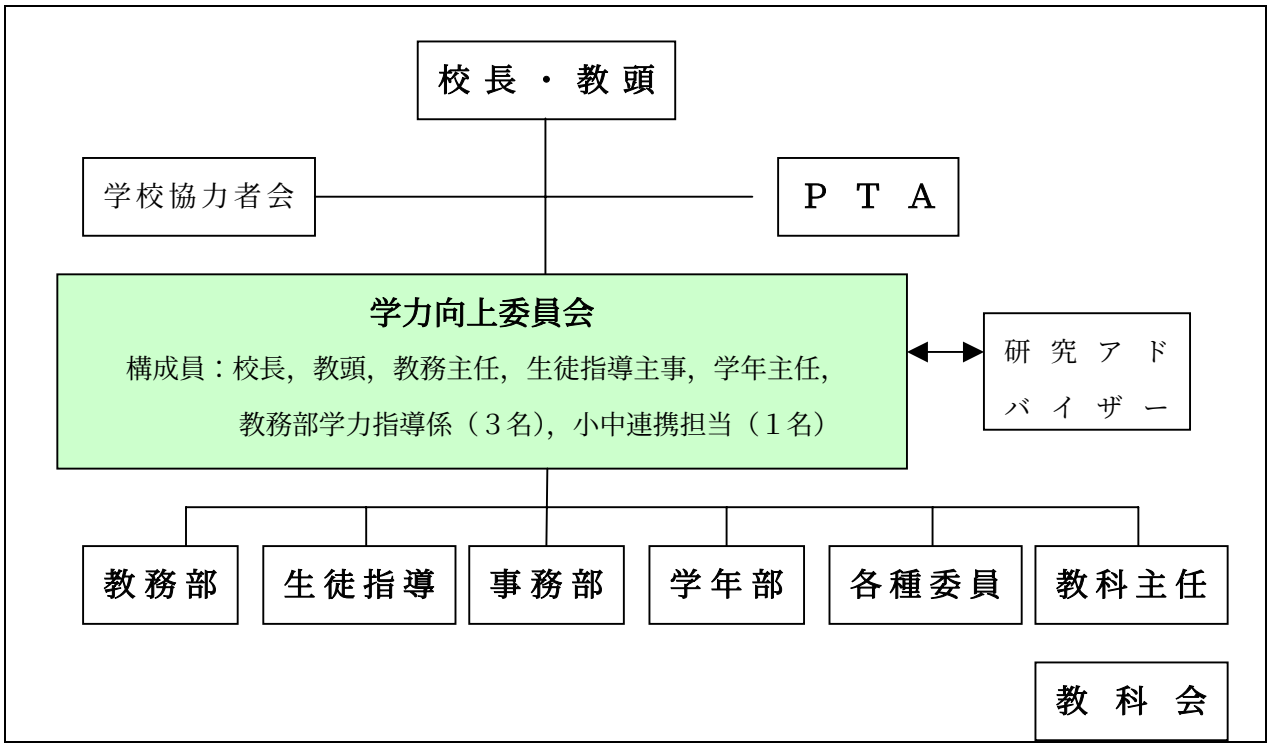
| 時間 | 過程 | 学習活動（発問と反応） | 指導（○）と支援（●） | 判定基準と評価方法［観点］ |
|---|---|---|---|---|
| | つかむ | | | |
| | 考える | | | |
| | 深める | | | |

＊　基礎・基本の学力構造図（生徒の思考，行動，心情のレベルで具体化）
＊　検証の視点
＊　個に応じた細案の作成（座席表）

６．基礎・基本の定着度（検証資料の取り方）




７．研究組織

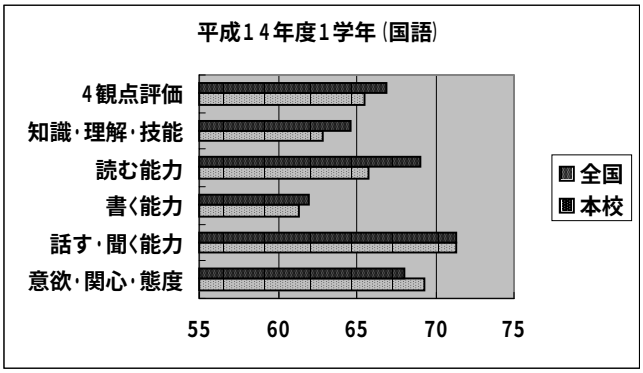


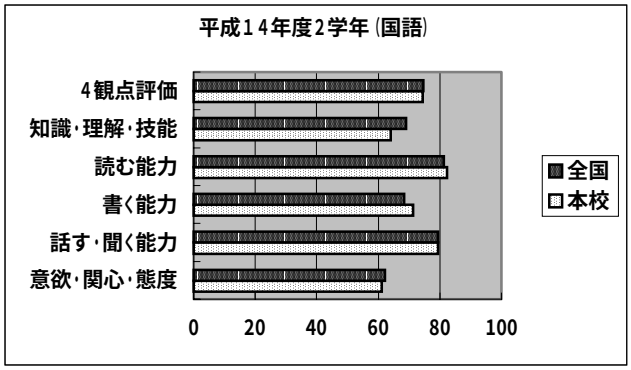
Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

１．基礎・基本の定着度（通過率）の推移

(1) 平成１５年２月実施の目標基準準拠学力検査（ＣＲＴ）の分析

① 国語



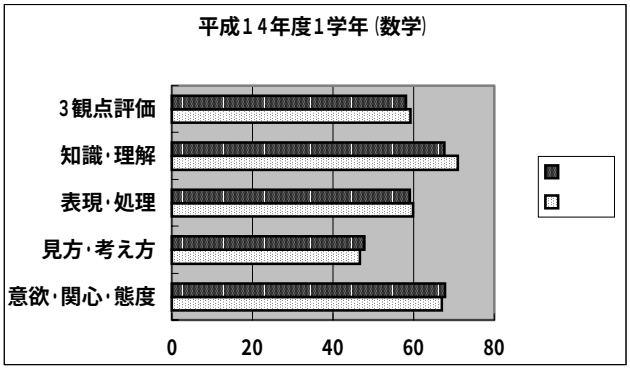



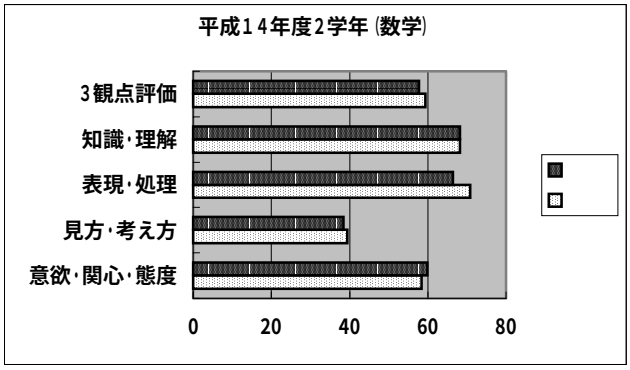

１学年は，少人数指導による細やかな個人指導により，文法学習と書く力は伸びてきている。しかし，まだ漢字の力が定着していない。読みに関しては間違えることを恐れて受け身になっている。日頃の授業で，関心・意欲の低い生徒は聞く力も弱いという傾向が見られる。

２学年は，国語に対する興味・関心が高く，苦手意識はあまり持っていない。言語の知識，特に文法・漢字の知識・理解が充分でなく，これからの課題である。生徒の多くは古文に苦手意識を持っている。

１学年よりも２学年の方が全国レベルに近い基礎的な学力を身につけている。

② 数学



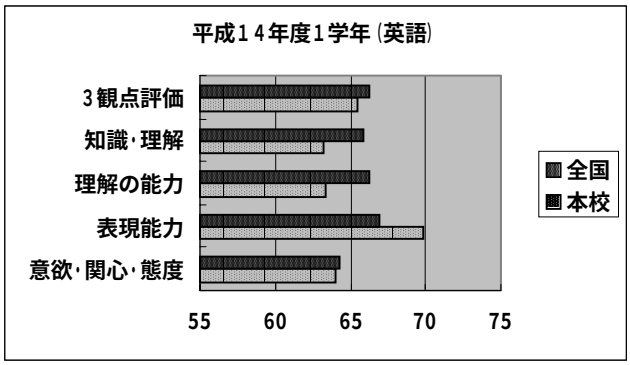



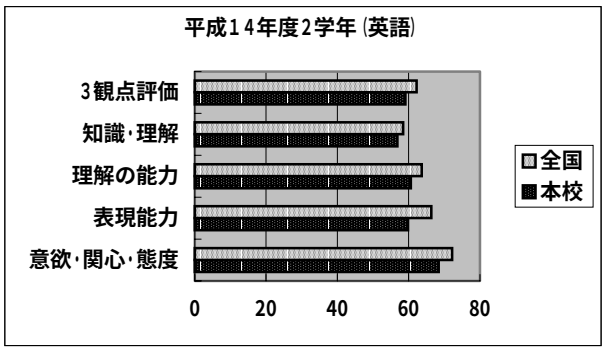

１学年は全国と比べて「表現・処理」「知識・理解」が高くなっている。これは，少人数指導による個に応じた指導が比較的出来たこと，習熟の程度に応じて基礎・基本を繰り返し行うことが出来たためと思われる。数学的な見方や考え方は少し低いが，まだ磨かれていないためで，学習が進むにつれて練習を積み重ねることで上がっていくと考えている。

２学年も「表現・処理」が高くなっている。基礎的な計算等については，繰り返し定期テストに出題し，定着を図るようにしてきた成果であると思われる。

１・２学年共に全国レベルの基礎的な学力を身につけていると考えられる。

③　英語



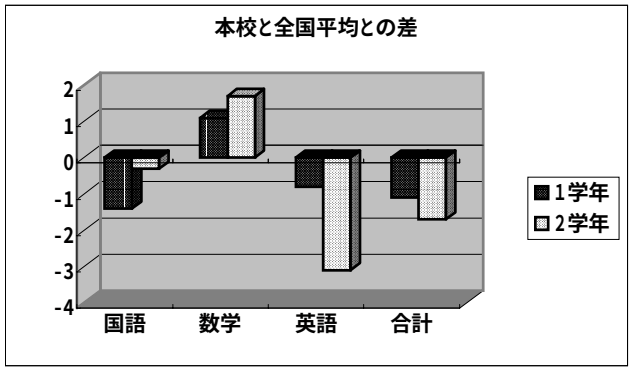

１学年は，「聞く・話す・読む・書く」の基礎的な学力は身に付いている生徒が多い。特に，英語を使っての自己表現は良くできている。リスニング，リーディングに関しては，やや長い会話文や長文になるとミスがあった。この改善策として，少し長めの長文を読む練習や，まとまった文を聞く練習をする機会を増やしていく。

２学年は，いずれの観点も全国レベルより下である。知識・理解のレベルで止まってしまう学習をしているようの思われる点が多いので，音読等を中心に表現することを授業で指導していく。

１・２年共に全国レベルより低い学力であるが，特に１学年の「理解の能力」「知識・理解」が課題である。

る。

③全国平均との差

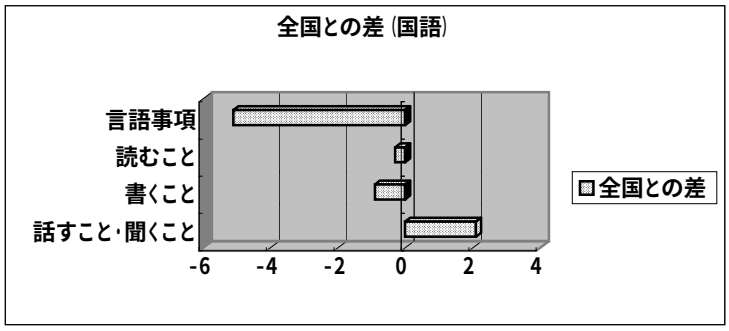



１・２学年共に国語，英語の学力が全国平均よりも低くなっている。特に，１学年では国語，２学年では，英語が全国平均より学力差が大きくなっているのが課題である。数学では，１・２学年とも全国平均を上回っている。

しかしながら，合計では国語，英語の影響で両学年とも 1.1～1.7 のマイナスになった。

(2) 平成１５年５月実施の集団規準準拠学力検査（ＮＲＴ）の分析

①　国語

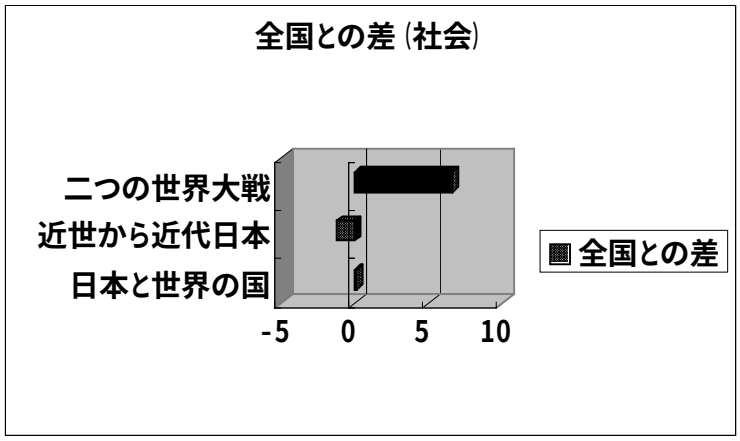



それぞれの領域で，終わりの問題ほど通過率が低く，標準的な時間で問題を解くことに慣れていないことがうかがえる。

平均的な学力の生徒が多く，今後の指導によって基礎・基本を確かなものとして，問題を解く意欲や見通しを身につけ，自信をつけさせていく必要がある。

また、文法の内容を１，２年の内容から復習する必要もある。

② 社会

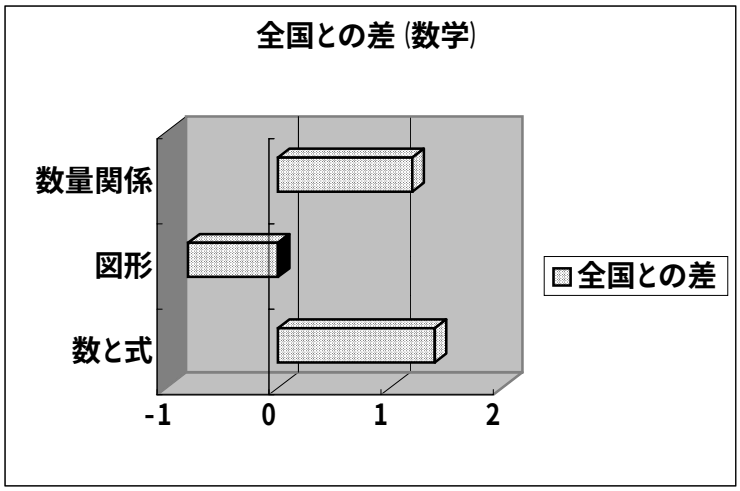



「日本と世界の国々」については，ほぼ全国平均である。ただし，「自然環境から見た世界と日本の姿」についてはやや低い傾向が見られる。

文章を読み取って誤りを指摘する問題が弱い。また，表やグラフを読み取る問題も弱い。表やグラフから正答を導き出す問題を授業でも進めていく必要がある。

社会科に関わる語句は理解し，確実に覚えていく力は着いているようである。

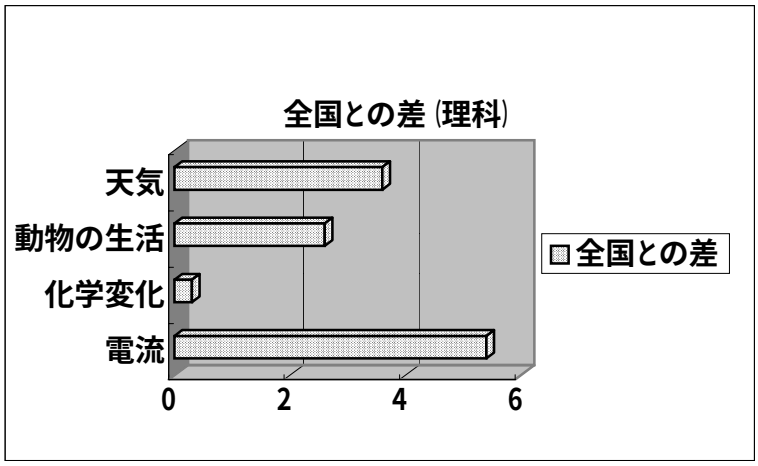
③ 数学




繰り返して出題している計算問題については定着してきている。しかし，文字式で表したり，式を立てたりということが課題である。また，確率の通過率が低いが，独立した単元なので授業で復習をすることにより通過率を上げる。

１次関数については全国平均よりも通過率はよいが，通過率自体が低いのでしっかり，復習を組み込みながら授業を進め，着実に定着させる。

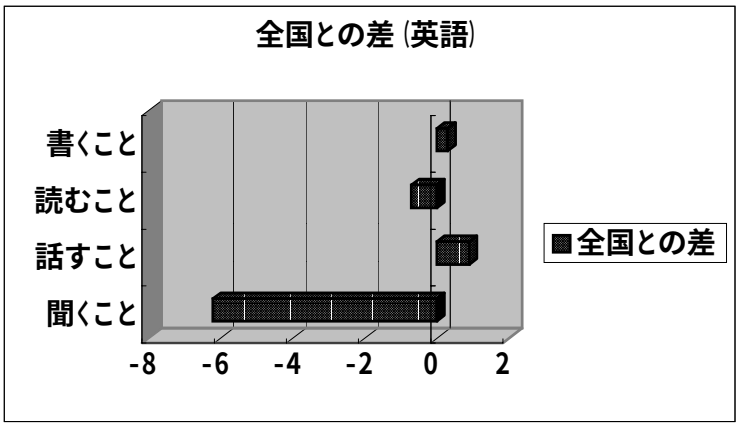
④ 理科




２年生の単元では，ほぼ全国平均を上回り通過率も良かった。基本的な用語や現象については理解が定着していると思われる。授業でも観察や実験の機会を十分にとってきたこと，理科に対する興味・関心の比較的高い生徒が多いことに起因すると考えられる。

しかしながら，科学的な考え方を問われる問題に対して，既存の知識を応用させて取り組むことが弱い生徒が多い。今後は，「疑問を解決する過程」を大切に指導し問題解決能力を鍛える。

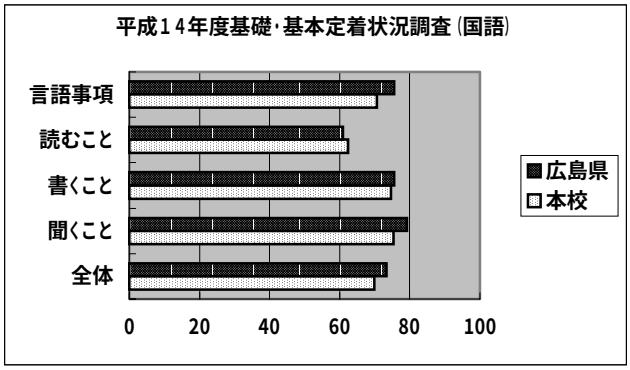
⑤　英語

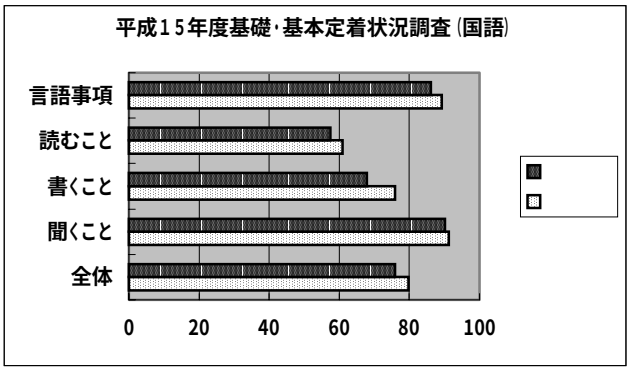



「聞くこと」の通過率が低いために全国平均値に達していない。会話で使う「聞き返し」の表現は一番良い通過率になっている。授業で使う機会を増やして定着を図る。　また，その他の弱い点として「話を発展させること」がデータに出ているが，「適切に読み取り」「整理する」ことが弱い。それらの点を克服するための具体的方策を立ててこれからの指導を進めていくことが課題である。

(3) 平成１５年度と平成１４年度の基礎・基本定着状況調査の比較
（同一発達段階での比較：第２学年）

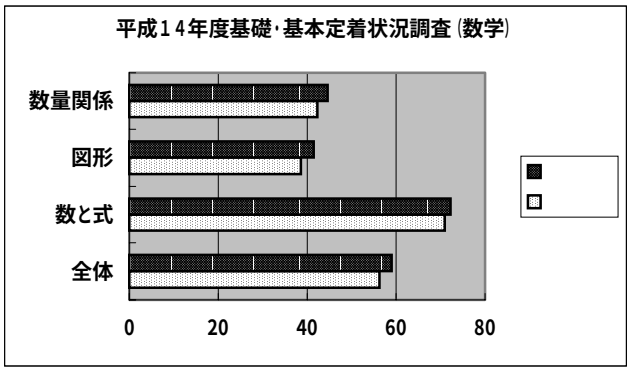
①　国語

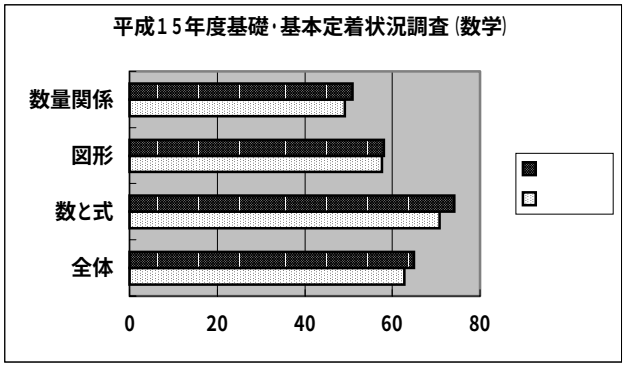



昨年度より，すべての領域で県平均と越え，さらに通過率も１０％近く上昇した。しかし，「読むこと」は通過率が依然として低い。平成１５年度の第２学年は，入学以来，少人数指導・ＴＴの授業形態で授業を進めているので，個に応じた指導や助言に時間が取れたと思われる。

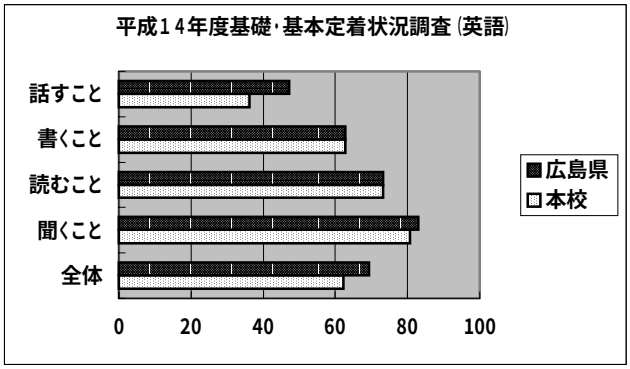
②　数学

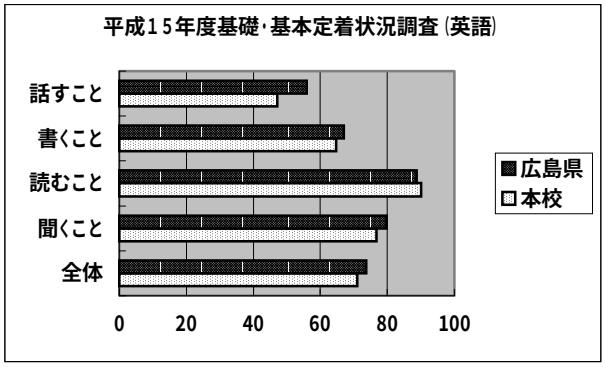



平成１５年度は，平成１４年度よりも 0.6%通過率が上がっている。特に，図形領域での図形領域での定着率が，県平均と比較してアップしている。

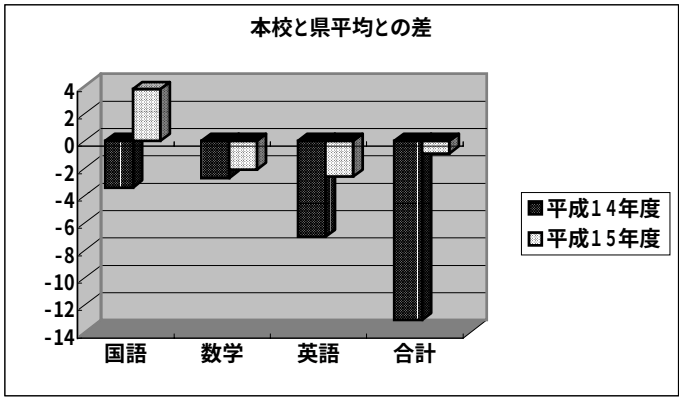
③　英語




平成１４年度は，全体の通過率が７％低かったが，平成１５年度は 2.6%の差まで縮まってきた。「読むこと」が良くなった結果である。しかし，「聞くこと」「話すこと」は，学校としての課題である。

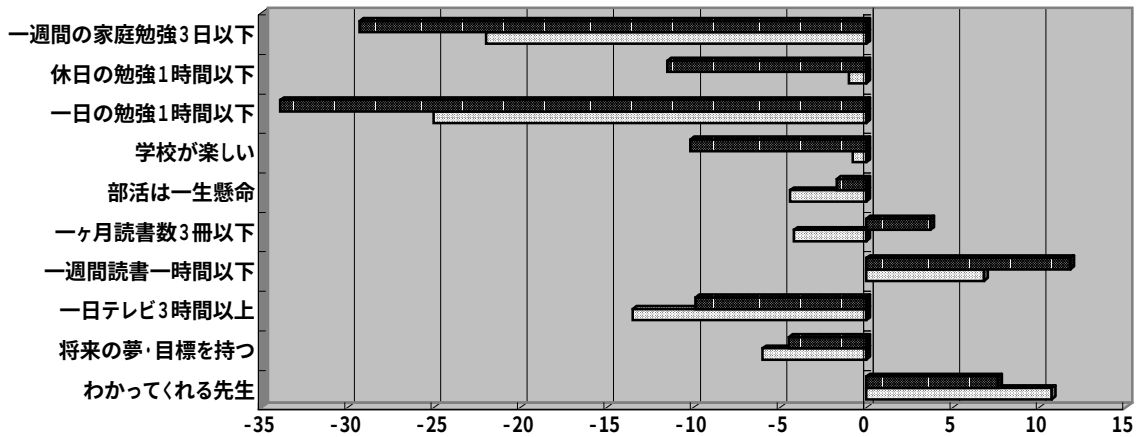
④　本校と県平均との差



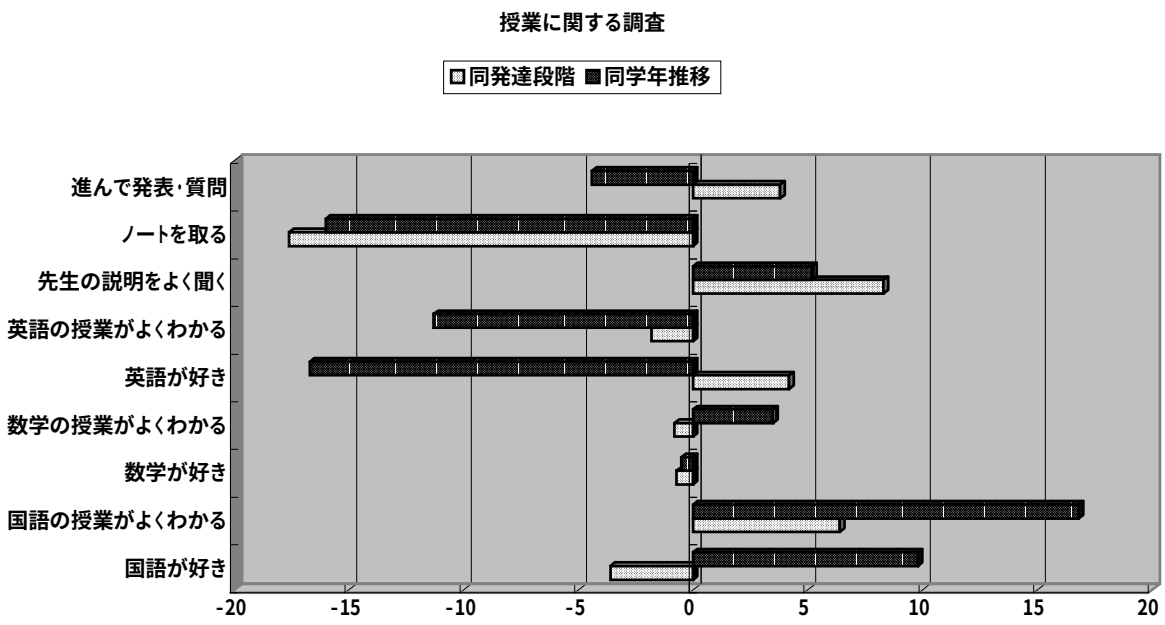

平成１４年度は，３教科とも県平均を下回り，特に英語の学力差が大きかった。しかし，平成１５年度は県平均との差は縮まり，特に国語では県平均を 3.8 点上回る通過率であった。

結果として，学校としての第２学年における学力は，県平均のレベルまで上がってきた。

２．生徒の学習と生活実態の変化




同発達段階・・・今年の２年と、昨年の２年の比較
同学年推移・・・今年の３年と、昨年の２年の比較

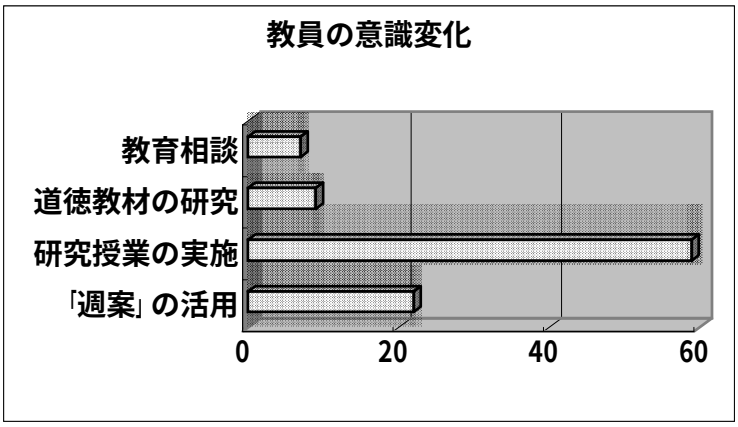



平成１４年度の２学年の生活実態調査では，一日の家庭学習時間が１時間以下の生徒が 60%余りの生徒であったが, 本年度の調査では同学年の学年推移で１時間以下の生徒が 34%減少している。また，本年度の２年生も昨年度と比べて 25%少ない結果になっている。家庭学習の時間は，確実に増加の傾向にあるようである。

また，授業に対する姿勢であるが,「先生の説明をよく聞く」は，どちらの学年も 5.2～8.8%の増加している。しかし,「ノートを取る」が 16～17.6 の減少となってきた。「授業が好き」「授業がよく分かる」は，３年生の英語で大きく減少している他は，増加の傾向である。特に国語がよく分かると答えた生徒が 6.4～16.8%の増加で，本年度の基礎・基本定着状況調査の国語の学力向上を裏付ける結果となった。

意欲の面では分かる授業となっているが，ノートの取り方など具体的に習慣づけ，学習スタイルの確立を図ることが必要である。

３．教員の意識変化




昨年度より，学力向上を各教科で取り組んできたが，その結果として教員の意識に特に大きな変化があった項目を，自己評価の中から挙げてみると上記の結果である。

研究授業に意欲的に取り組む様子と，週案を積極的に活用しようとする変化が顕著である。どちらの項目も授業改善にはなくてはならないものであり，基礎・基本の定着を目指して授業改善を進めて行こうとする課題意識が明確となっている。

４．平成１５年度の成果

○　全員が研究主題に沿った学習指導細案を作成し，研究授業を実施することにより，授業改善の方向性が明確になり，教員の授業に対する改善意欲が高まってきた。
○　計画的に基礎・基本の定着状況を把握する標準学力検査，授業評価を実施することによって，各教科・各学年で，個に応じた指導の工夫が見られるようになった。
○　国語科，数学科，英語科においては基礎・基本の定着が進んできた。

５．今後の課題

○　温品中学校の教育で身につけさせたい各教科の学力構造を明確にし，各教科の指導のねらいをいっそう明確にする必要がある。
○　研究主題である【生徒の主体性】を，生徒の行動・心情・思考レベルで具体化し，主体性を育てる授業づくりのための研究授業をすすめる。
○　授業設計段階における時間配分を適正に行い，生徒の実態分析力と指導力の質的向上を図ることが必要である。

Ⅳ　平成16年度の取り組み

１．平成１６年度のテーマ

**基礎・基本を身につけ，主体的に学習する生徒の育成**

～　関心・意欲を育て，基礎・基本の確実な定着を目指す授業の創造　～

２．研究の見通し

**＜研究の方向性＞**

①　各教科で学力構造を明確にする
　・各教科で育てる学力を明確にし，保護者・生徒に説明する
②　生徒の関心・意欲・態度を，生徒の具体的な思考・行動・心情レベルで表現し構造化する
③　授業研究をとおして授業改善を図る
　・基礎・基本の定着を目指すための個に応じた指導の工夫を行う
　・生徒の考える場を設定するなど，主体的活動を取り入れた授業の工夫改善を行う
④　学校評価を利用し，客観的・多角的視野で「分かる授業」をつくる
　・「分かる授業」から「分かる楽しさ」「やってみようとする意欲」「やればできる自信」を育てる
⑤　指導と評価の一体化を図る
　・個に応じた授業の工夫（少人数指導，ティームティーチング，習熟度別指導など）
　・目標基準準拠検査や集団基準準拠検査を活用した指導法の改善を行う
　　→　生きてはたらく評価（生徒個々の課題把握と個別指導内容の明確化）
　・評価分析にとどまらず，アクション（改善のための工夫）を起こす
⑥　基礎・基本を確実に定着させる
　・生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導が不可欠である
　・全教科において基礎・基本の分析を行い，基礎・基本の徹底と学習内容の精選・焦点化を行う
　・授業仮説を設定し，ねらいと指導意図・検証の視点を明らかにする

３．研究の内容・方法

**(1)　授業研究の実施**
　①　習熟の程度に応じた指導を図る指導案の工夫
　②　発問，板書の工夫
　③　教育機器の使用
　④　自己評価能力の育成を意図したプリント，ノートの活用
　⑤　授業規律，学習スタイルの確立
**(2)　個を伸ばす指導法についての理論研究**
　①　自分の学習をコントロールし，自己評価する能力の育成
　②　問題解決的な学習・体験的な学習（体験と結びついた基礎・基本を確かなものにする）
**(3)　授業評価による授業改善**
　①　生徒，保護者による授業評価の活用
　②　授業観察表の活用

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１．平成１５年７月９日（水）温品中学校公開授業研究会
　内容：社会科，技術家庭科（技術分野・家庭分野）公開授業，研究協議会
　対象：地域，保護者，地域学校関係
２．平成１５年１１月１２日（水）広島市中学校研究大会（国語科，英語科，数学科）
　内容：国語科，英語科公開授業，研究協議
　　数学科実践報告，研究協議
３．平成１５年１１月１５日（土）温品中学校公開授業研究会
　内容：道徳公開授業，全体会，研究協議会，講演会
　対象：広島県内外各中学校関係者，地域，保護者
４．平成１６年１月１４日（水）広島市地区協議会（東区，安芸区，南区）
　内容：国語科，英語科（少人数・習熟度別指導）公開授業，研究協議，全体会
５．ホームページで研究内容の公開
　内容：研究内容，研究授業指導案等の最新情報をリアルタイムで掲載し，全国に発信している。
６．学校視察
　内容：本校に視察に来られた１６０名余りの，教育委員会，中学校関係者に研究内容を説明し授業参観をしていただくとともに，研究推進の情報交換を行った。
７．平成１６年７月７日（水）温品中学校公開授業研究会（道徳）
８．平成１６年１１月１２日（金）温品中学校公開授業研究会（各教科）
９．平成１７年１月（予定）広島市地区協議会

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
■１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導
■その他

【研究教科】　■国語　■社会　■数学　■理科
■外国語　■音楽　■美術　■技術・家庭
■保健体育　■その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無